

平成31年第5回大田原市教育委員会定例会 会議録

開催日時		平成31年4月19日(金) 午後1時30分			
開催場所		本庁舎 403会議室			
会議 出席 欠 状 況	教育長	植竹 福二	出席		
	委員	深澤 道昭	出席	川上 聖子	欠席
		小林 朋子	出席	森 泉	出席
		渡邊 英憲	欠席		
	事務局職員	教育部長	齋藤 達朗	生涯学習課長兼 中央公民館長	津久井 静男
		教育総務課長	大森 忠夫	文化振興課長	長谷川 操
		学校教育課長	明澤 伸宏	スポーツ 振興課長	君島 敬
		国体推進課長	磯 一彦		
	書記	教育総務課	伊東 佳子、松本 一弘		
	付議事項	○ 報告 2 件 [報告第 2 号～第 3 号] ○ 協議 件 [協議第 号～第 号] ○ 議案 3 件 [議案第 18 号～第 20 号]			

1 開 会 午後1時30分

2 前回会議録の承認

3 議 事

日程第 1 報告第 2号 市長の専決処分事項の報告について

日程第 2 報告第 3号 第2次大田原市子どもの読書活動推進計画について

日程第 3 議案第18号 大田原市奨学金貸与条例に基づく奨学生の決定について

日程第 4 議案第19号 平成32年度使用教科用図書の採択に係る選定について

日程第 5 議案第20号 大田原市教育委員会特別職の職員等で非常勤のものの委嘱並びに任命について

4 そ の 他

5 閉 会 午後1時44分

6 傍 聴 人 0 名

7 会議の要旨 次のとおり

平成31年第5回大田原市教育委員会定例会 発言要旨

平成31年4月19日（金）午後1時30分から

○教育長（植竹福二君） 　　ただいまから平成31年第5回大田原市教育委員会定例会の会議を開きます。

○教育長（植竹福二君） 　　前回会議録は、書記をもって調製させましたので、順次回覧いたします。内容をご確認いただきたいと思います。

（会議録順次回覧）

○教育長（植竹福二君） 　　会議録の内容についてご確認いただきましたが、前回会議録につきましてご承認いただけますか。

（異議なしの声あり）

○教育長（植竹福二君） 　　異議はないようでありますので、前回の会議録は承認されました。委員会閉会后、ただいまの会議録に署名をお願いいたします。

○教育長（植竹福二君） 　　本日付議いたします案件は、報告2件、議案3件であります。それでは日程に従い会議に入ります。
日程第1 報告第2号 市長の専決処分事項の報告についてを議題といたします。
詳細について、教育総務課長から説明をお願いします。

○教育総務課長（大森忠夫君） 　　（概要の説明を行う）

○教育長（植竹福二君） 　　説明が終わりましたので、質疑を行います。

○教育長（植竹福二君） 　　質疑はないようでありますので、質疑を終わります。
お諮りいたします。
報告第2号 市長の専決処分についてにつきましては、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（異議なしの声あり）

○教育長（植竹福二君） 　　ご異議なしと認めます。よって本案は、原案のとおり承認されました。
次に、日程第2 報告第3号 第2次大田原市子どもの読書活動推進計画についてを議題といたします。
詳細について、生涯学習課長から説明をお願いします。

○生涯学習課長（津久井静男君） 　　（概要の説明を行う）

- 委員（森 泉君） 第2次ということで、作成に至る経緯といえますか、大田原市独自の流れで作成しているのでしょうか。
- 生涯学習課長（津久井静男君） 資料にありますとおり、国においては中央教育審議会の平成28年5月の答申で、学校図書館についての言及があり、県においても読書活動の推進計画が策定されていることから、これらの流れにも基づきまして本計画を策定しております。
- 委員（森 泉君） 本市独自の取組みはありますか。
- 生涯学習課長（津久井静男君） 市独自の取組みというほどではありませんが、現在市立図書館を活用しまして、学校図書館との連携や、巡回図書を行っております。特に学校図書館との連携は他市町村よりも進んでいると思われれます。
また、家（うち）読ということで、家庭での読書に取り組んでいますが、想定よりも低調でしたので、今後は実績を伸ばすべく力を入れてまいりたいと考えております。
- 教育長（植竹福二君） その他、質疑はないようでありますので、質疑を終わります。
お諮りいたします。
報告第3号 第2次大田原市子どもの読書活動推進計画についてにつきましては、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。
- （異議なしの声あり）
- 教育長（植竹福二君） ご異議なしと認めます。よって本案は、原案のとおり承認されました。
次に、日程第3 議案第18号 大田原市奨学金貸与条例に基づく奨学生の決定についてを議題といたします。
詳細について、教育総務課長から説明をお願いします。
- 教育総務課長（大森忠夫君） （概要の説明を行う）
- 教育長（植竹福二君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。
- 委員（深澤道昭君） 募集要項の資格要件が一部満たないという申請者は、保証人兩名の就業が安定しているとのことで貸与適格者となったとのことですが、この就業の安定とはどういう内容で確認されたのでしょうか。
- 教育総務課長（大森忠夫君） 申請の段階で、前年度の住民税決定通知書を提出していただきまして、所得の状況を確認することと、併せまして申請書から就業先と就業形態を確認しております。
- 委員（深澤道昭君） 単年度の所得で判定ということですので、所得の安定ということになると幾分難しい判断のようにも感じるところもあります。また、申請者が13名というのは、例年に比べると少ないように思いますが。

- 教育総務課長（大森忠夫君） 昨年度は27名でしたので、約半減となっております。例年25名前後で推移しておりましたので、今年度は少ない状況となっております。
- 委員（深澤道昭君） 市の奨学制度に魅力がなくなってきたということはありますか。
- 教育総務課長（大森忠夫君） 景気の回復という点もあるかもしれませんが、特に学生の申込が多い学生支援機構の奨学金ですが、ここ数年で要件が緩和されていることから、そちらに流れているように感じています。
それと、これは制度的な違いからですが、同機構でも申込期間が早いので、受験が始まる前から募集が始まりますので、先に機構で予約ができてしまいますと、あえて市のほうへ申請しないのではないかと考えられます。
- 教育長（植竹福二君） その他、質疑はないようでありますので、質疑を終わります。
お諮りいたします。
議案第18号 大田原市奨学金貸与条例に基づく奨学生の決定について
につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。
- （異議なしの声あり）
- 教育長（植竹福二君） ご異議なしと認めます。よって本案は、原案のとおり可決されました。
次に、日程第4 議案第19号 平成32年度使用教科用図書の採択に係る選定についてを議題といたします。
詳細について、学校教育課長から説明をお願いします。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） （概要の説明を行う）
- 教育長（植竹福二君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。
- 委員（深澤道昭君） 今回小学校は全教科ということですが、中学校はどうなりますか。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） 中学校については、平成27年度に採択をしておりますので、昨年度で4年間が終わり、本来であれば今年度が採択ということになりますが、新学習指導要領の実施が平成33年度に控えておりますので、1年間使用期間を伸ばしまして、5年間使用することとなりまして、平成32年度に全教科の採択作業を行うこととなります。
- 教育長（植竹福二君） その他、質疑はないようでありますので、質疑を終わります。
お諮りいたします。
議案第19号 平成32年度使用教科用図書の採択に係る選定について
につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。
- （異議なしの声あり）

- 教育長（植竹福二君） ご異議なしと認めます。よって本案は、原案のとおり可決されました。
次に、日程第5 議案第20号 大田原市教育委員会特別職の職員等
で非常勤のものの委嘱並びに任命についてを議題といたします。
詳細について、学校教育課長から説明をお願いします。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） （概要の説明を行う）
- 教育長（植竹福二君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

（質疑を行う）
- 委員（深澤道昭君） 各運営協議会20名以内とのことですが、多い協議会もあれば、少ない協議
会もあって、差があるようですが、できるだけ地域の人を取り入れて運営してい
くのがいいのかなと思います。
- 教育長（植竹福二君） 中学校区によって差がありますのは、構成する中学校と小学校の数によって、
特に若草中学校区は、若草中学校と大田原小学校の2校で構成しますの
で、他校区と比べても少なくなっております。
従いまして、構成学校数が一番多い親園中学校区が最多の委員数になって
おります。
- 委員（小林朋子君） 運営協議会の運営方法について、昨年度何度か協議会の様子を見させて
いただきましたが、開催回数ですとか、話し合う内容ですとか、各協議会同じよ
うに運営されていたような気がしましたが、教育委員会として統一的な運営指
針を示していたのでしょうか、それとも各学校区が独自に運営方法を決めていた
のでしょうか、そのあたりはどうなっていますか。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） 昨年度からコミュニティスクールが導入され、初めてでありましたので、教育委
員会としてもガイドブックを作成し、その運営方法等はお示しはしております、
昨年度については「年4回を目安に協議会を開催してください」、さらに「1回目
はこういった内容でやってください」というような、ある程度の案はお示しました。
しかしながら、今年度は2年目となりますので、各中学校区独自の議題が話
し合われることが期待されます。ただし、「学校運営の方針」、「中学校区の方
針」といった法律で必須とされている内容については、協議会において諮って承
認していただくことになっております。
- 教育長（植竹福二君） コミュニティスクールについては、昨年度から始まりましたが、円滑に運営される
ためには、10年間とみておりまして、それも地域コーディネーターの頑張りが相当
必要であろうと考えておりますので、15年かかるくらいの気持ちも必要かと思いま
す。
ただ、コミュニティスクールが機能すれば、学校の先生に代わって地域の人材が
動く場面が多くなれば、今叫ばれている学校の働き方改革に大きく寄与するこ
とは間違いないと考えております。

○委員（深澤道昭君） 地域には、その人が動けばみんな動いてくれるというような要になる人が必ずいますので、そういった人に上手く入っていただいて実施する必要があると思います。

○教育長（植竹福二君） その他、質疑はないようでありますので、質疑を終わります。
お諮りいたします。
議案第20号 大田原市教育委員会特別職の職員等で非常勤のものの委嘱並びに任命についてにつきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（異議なしの声あり）

○教育長（植竹福二君） ご異議なしと認めます。よって本案は、原案のとおり可決されました。
以上をもちまして、本日予定されました案件はすべて議了いたしました。
なお、その他で何かございますか。

○教育総務課長（大森忠夫君） お手元にお配りした計画訪問の日程をご覧ください。今年度5月を皮切りに6回予定されておりますので、各委員さん割り振りをさせていただいておりますが、ご参加いただきますようお願いいたします。
なお、詳細な日程については、後ほど学校教育課の担当者からご連絡させていただきますが、今年度から訪問は午後のみとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（明澤伸宏君） 昨年度までは、朝から始まりまして、お昼に給食を食べていただいたり、授業を参観いただいたりして、1日の日程でしたが、働き方改革あるいは学校の負担減という点から、午後からの訪問となりました。
授業は1コマが研究授業となりまして、その他学校の運営方針等を聴く場を設けておりますので、ご理解いただければと思います。

○教育長（植竹福二君） なぜ、今年度から日程を変えたかといいますと、学校にとっての計画訪問は、とにかく負担となるものでして、また指導主事にとりましても担当校と何度も打ち合わせを行うなど、両者にとって負担が大きいということで、本市が声を上げまして、できるだけ改革しようと検討してまいりました。
計画訪問の意味としては、学校運営のチェックといいますか、ある意味で監査的なもの、授業力の向上等多々ありますが、必要最低限のものに絞ってみたいところ、半日で何とかできるのではないかということになりました。
これで、どこまで先生方の負担を減らすことができたかは、まだわかりませんが、とりあえずやってみようということになりましたので、よろしくお願いいたします。

○教育長（植竹福二君） その他、何かありますか。

- 委員（深澤道昭君） 先日の文科大臣談話の中で、小学校高学年の教科担任制について中教審に諮問したとありましたが、小中一貫教育を進める観点からも、どのように考えればよいのか教えていただきたいと思います。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） 小中一貫教育の計画の中では、「できるだけ」という表現で、高学年の教科担任制を導入して欲しいとなっておりますが、一部の学校では既に実施している教科もございます。
- 委員（深澤道昭君） 小中一貫型というよりは、義務教育学校の形態のほうがより一層効果があるのかなとも思いますが、そのあたりどういう点に着目したらいいのか、ポイントを教えていただければと思います。
- 学校教育課長（明澤伸宏君） 教科担任制については、大規模校は比較的導入し易いということがあります。単学級のような小規模校では、そもそも先生の数も少ないものですから、導入が難しい面があります。
また、中学校の教員は、教員免許状が専門の教科で与えられておりますので、担任する教科を割り当てしやすいのですが、小学校の教員免許しか持っていない教員については、何の教科を任せるのかが問題になりまして、なるべく得意な教科や分野を基に、校長の判断で割り当てることとなります。
従いまして、免許制度も視野に入れながら、教科担任制は検討していかねばならないと考えております。
また、小中一貫教育の流れの中で、中学校の教員が小学校高学年の授業に入っていくって授業を一緒行う方法も考えられます。
- 教育長（植竹福二君） ただ、小学校の先生から言いますと、算数と国語の授業は担任として手放したくないとよく聞きます。小学校においての両教科は核となるものですから、最後まで面倒をみたいという想いが強くあるようです。
国語と算数をやらないで済んでしまうということになりますと、教員としての自信にもつながることがあるようでして、そのあたりもクリアする必要があると感じています。
また、小規模校が実施するためには、専門の教員が必要ですので、教員の増員が必要となりまして、そのあたりも視野に入れた大臣の発言だったのかなと思っております。
- 教育長（植竹福二君） 他に、ないようでありますので、以上をもちまして、平成31年第5回大田原市教育委員会定例会の会議を閉会いたします。
ご苦労様でした。

閉会：午後1時44分

この会議録は、平成31年4月22日に調製されたものであるが、その内容に相違ないことを認め、ここに署名する。

令和1年5月17日

委員

委員

委員

委員

委員

調製者